



手話ハンドブック

☆☆☆ 見て 動いて 伝え合うことば ☆☆☆

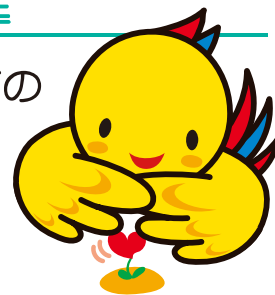


© 兵庫県 2018

兵庫県健康福祉部
障害福祉局ユニバーサル推進課

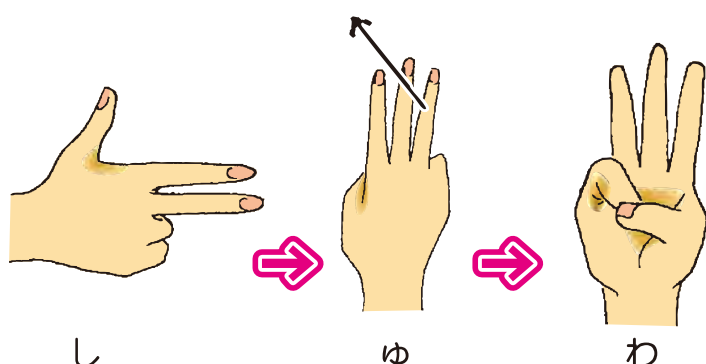
ユニバーサル社会づくりの推進

兵庫県では、年齢、性別、障害の有無、文化などの違いにかかわらず、だれもが安心して暮らし、元気に活動できるユニバーサル社会づくりを、県政推進の基本におく必要があると考えています。



このため、県民、事業者、団体及び行政等の参画と協働によるユニバーサル社会の実現をめざして、「ユニバーサル社会づくりの推進に関する条例」を制定しました。

今後、条例の基本理念にのっとり、全ての人々が互いに支え合い、一人ひとりが持てる力を発揮して活動することができる社会が実現できるよう、施策を進めていきます。



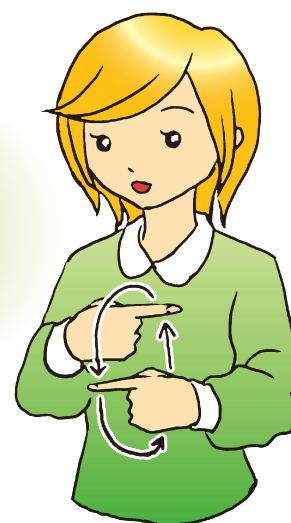
し

ゆ

わ

自分の体の方に引く
(小さな「ゆ」)

手話
「手話」



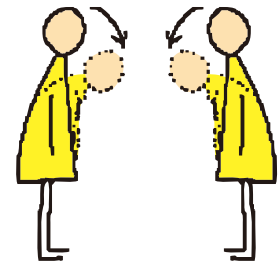
「手話」は耳の聞こえない人（ろう者）が、意思を伝え合うために使ってきた、見て、動いて話す言語です。社会のみんなが手話を言語として自由に使うことは、聴覚障害の方を含めた、すべての人が参加できる社会の実現につながります。

みんなが楽しみや喜び、驚きや感動を共有できる社会にするために、また、皆さんが手話や聴覚障害のことを知るために、このテキストがきっかけのひとつになることを願います。

挨拶のことば

あいさつ

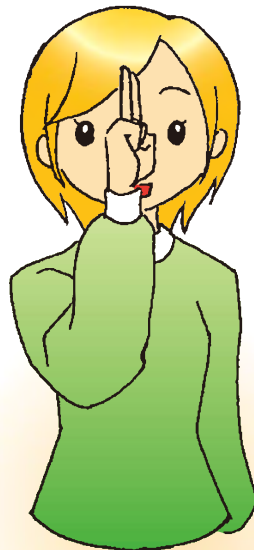
挨拶は
コミュニケーションの
初めの1歩



向かい合って
頭を下げるようす



おはよう



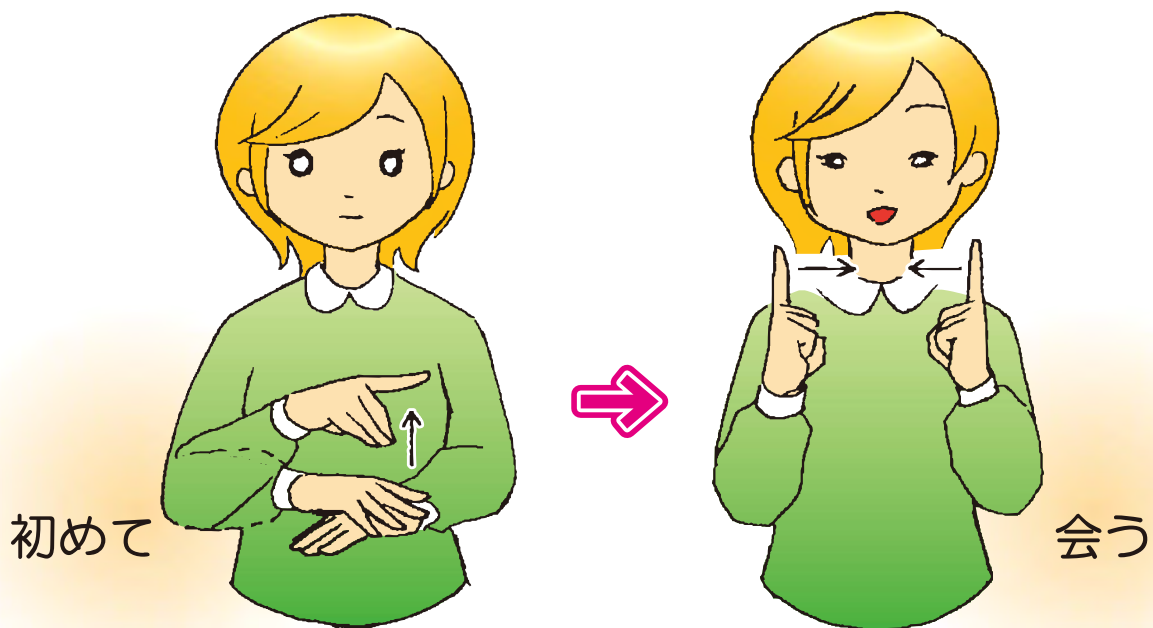
こんにちは



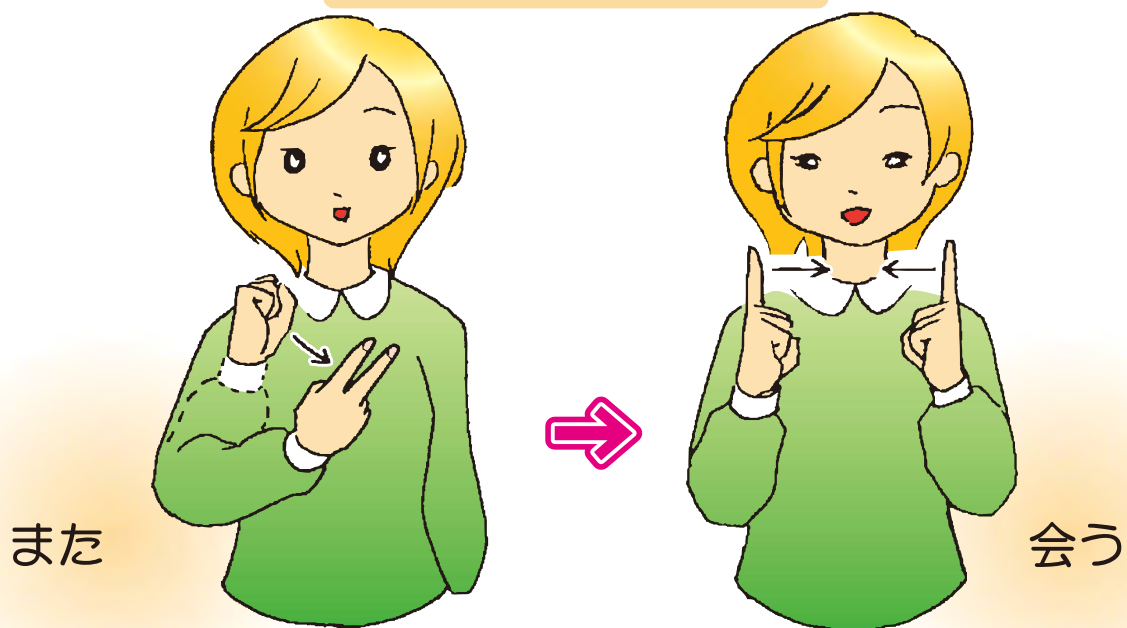
こんばんは

おはよう・・・グーは枕。頭を枕から離す動作で「朝」
こんにちは・・・時計の針が12時の位置で2本重なっている様子で「昼」
こんばんは・・・あたりが暗くなるようすで「夜」

はじめまして！

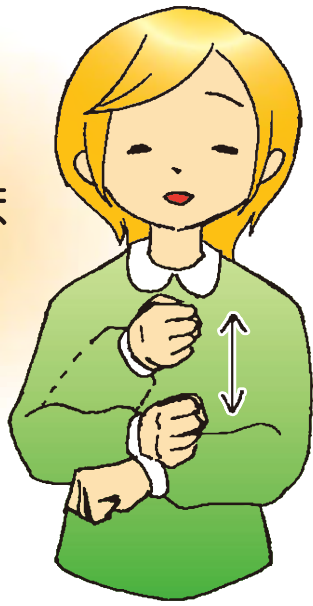


また、会いましょう

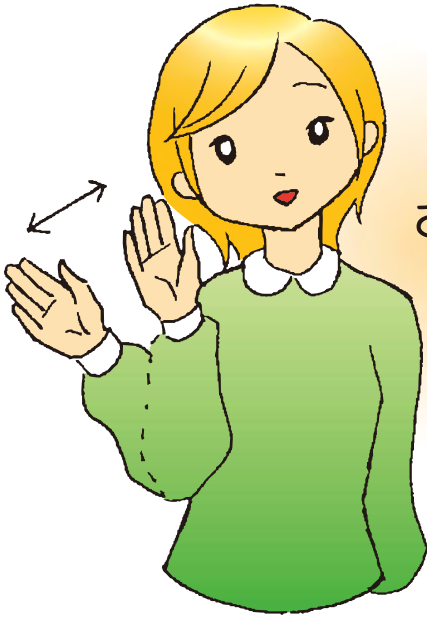


手話は、手の形だけではなく、顔の表情、手の動きの速さや強弱で、その時の気持ちを伝えます。ひとりひとり声が違うように、手話もその人なりの話し方があります。そして、手話にも方言があります。

お疲れさま



ありがとう

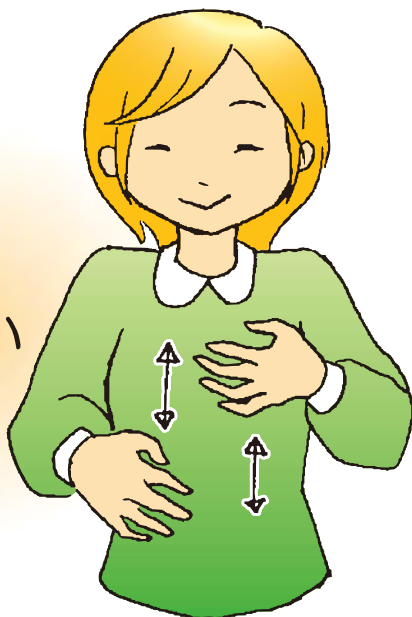


さようなら

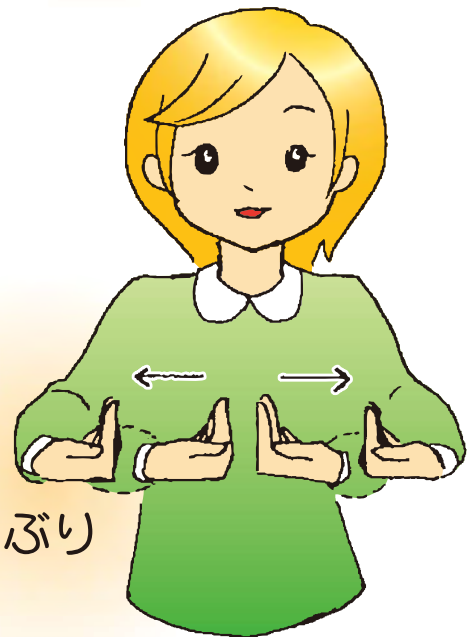


よろしくお願いします

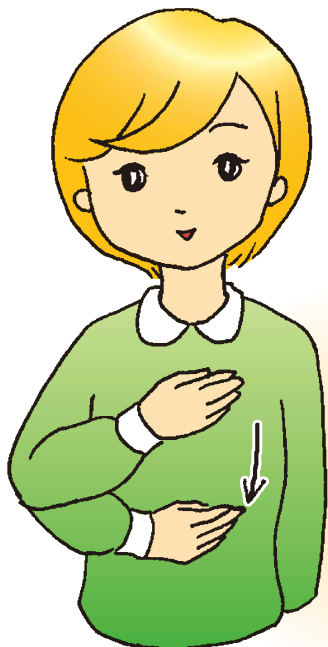
うれしい



ひさしぶり



答えることば



わかる



わからない

音声言語では、声の調子を聴いて気持ちが伝わりますね。手話では表情を見て気持ちを理解します。



好き



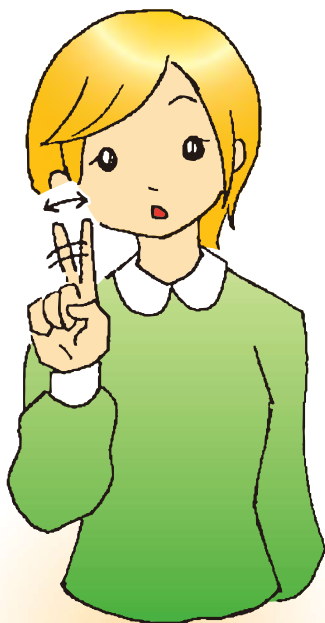
嫌い

尋ねることば

尋ねる言葉もたくさんあります。

「何？」は基本的な疑問詞。

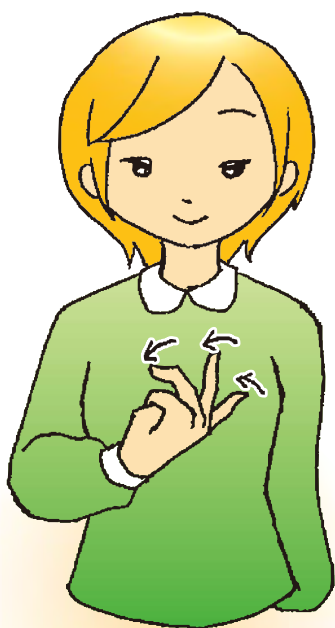
尋ねる表情で軽く人差し指を振ります。



何？

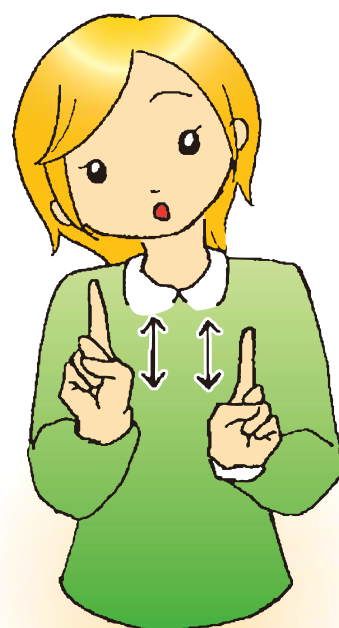


誰？

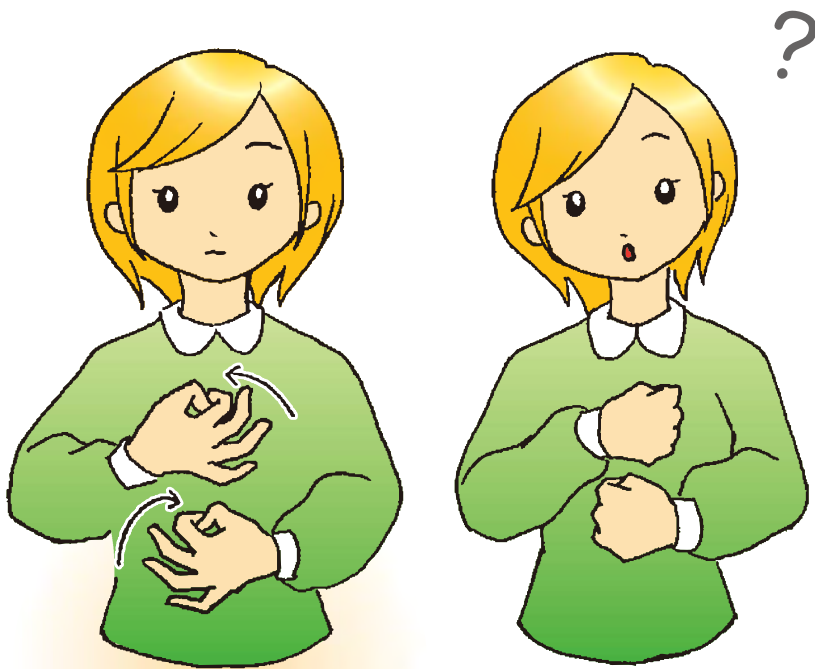


いくつ？

指で数を数えるように、順番に折っていきます。
いくつ？



どっち？



いつ？

尋ねるときは
聞く表情で
少し首を
かしげて

左右の手で、それぞれ「いくつ？」をやると
「何月何日？」 = 「いつ？」になります。

手話は、音声言語をそのまま手の動きに置き換えたものではありません。耳の聞こえない人が、そのものの動きや形を見たり、感じたりした経験から生まれてきています。

「おはよう」「こんにちは」「こんばんは」なども朝起きる動作や時計の針、日が暮れて暗くなるようすなどから生まれてきています。

いつも、やっている動作を思い出したり、目に見える景色、物の形、動き、特徴などに少し注意すると手話はとても身近なものになります。

一緒に「見るコミュニケーション」を楽しみましょう！

あなたのお名前は何？



あなた

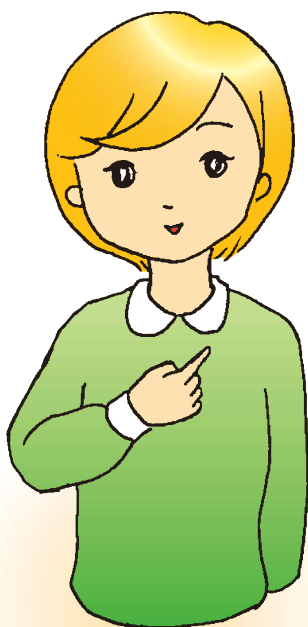


名前



なに？

私は〇〇です。よろしくお願いします。

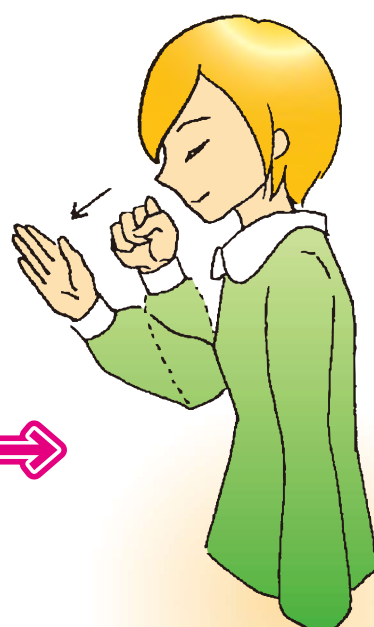


わたし



名前

な
ま
え



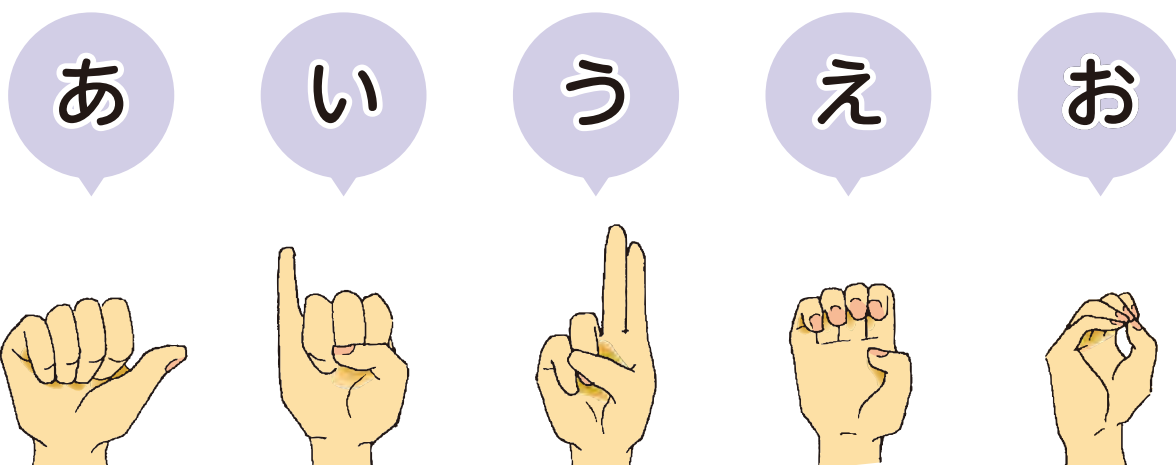
よろしく／お願い

名前の部分は空中に字を書き、名札を見せるなどの方法を使いましょう

指文字

指文字は手の形で「あいうえお・・・」の50音をひとつずつ表します。今、日本で広く使われているのは「大曾根式指文字」と言われるもので、大阪府立ろう学校（当時）の教諭だった大曾根源助氏がアメリカに視察に行った際、ヘレン・ケラーと出会ったことをきっかけに考案し、1931年に国内で使い始めました。そのため、アルファベットから借用した形が多くあります。

指文字は人や物の名前などの固有名詞や漢字の読み方を正しく伝えたい時などに活用されます。



アルファベットの	アルファベットの	アルファベットの	アルファベットの	アルファベットの
a	i	u	e	o

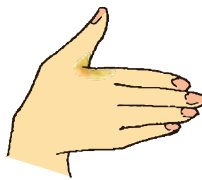
か



き



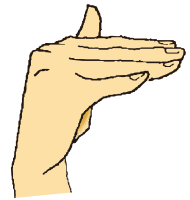
く



け



こ

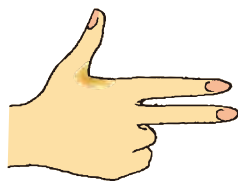


アルファベットの	きつねの	数字の	敬礼の動きから	カタカナの形
k	キ	9	け	コ

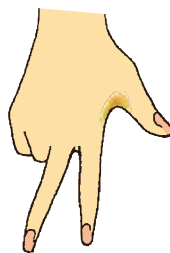
さ



し



す



せ



そ



アルファベットの	数字の	カタカナの形	一番長い指背が高い	それ指さし
s	7	ス	せ	そ

た



ち



つ



て

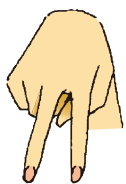


と

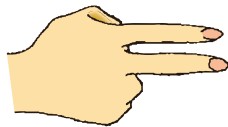


アルファベットの	千(読み方ち)0が三つ	つまむ形	手のひら全体で	~と~と二つあるものを表して
t	ち	つ	て	と

な



に



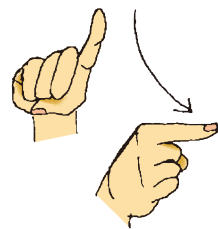
ぬ



ね



の



アルファベットの	数字の	「盗む」の手話から	木の根の形	カタカナの「ノ」を書く
n	2	ぬ	ね	ノ

は



ひ



ふ



へ

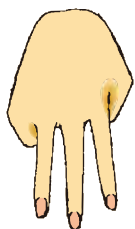


ほ



はさみの形	数字の1 ひとつ	カタカナの形	ひらがなの形	船の帆が膨らむ形
は	ひ	フ	へ	ほ

ま



み



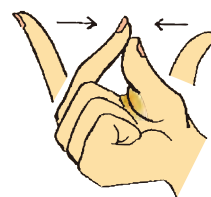
む



め



も

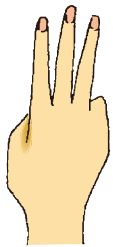


アルファベットの	数字の	数字の6 むっつ	目の形	~も~も「同じ」という意味
m	3	む	め	も

や



ゆ



よ



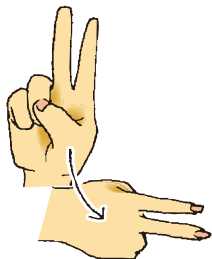
拗音 (ようおん) の
 や ゆ よ
 促音 (そくおん)
 っ
 は指文字の形の手を自分
 の体の方に近づけます

アルファ ベットの	温泉の湯気	数字の4 よっつ
y	ゆ	よ

ら



り



る



れ



ろ



アルファ ベットの	カタカナの 「リ」を書く	カタカナの 形	カタカナの 形	カタカナの 形
r	リ	ル	レ	ロ

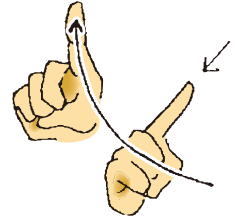
わ



を



ん



「を」は「お」の手を体のほうにひきます

アルファベットの

W

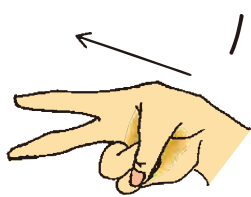
「お」を手前に引く

を

カタカナの「ン」を書く

ン

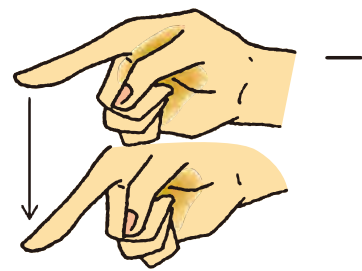
濁音は指文字の形の手を横に、半濁音は上に動かします。また、伸ばす音は人差し指で線を書きます。



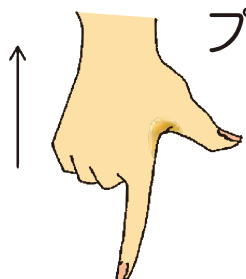
バ



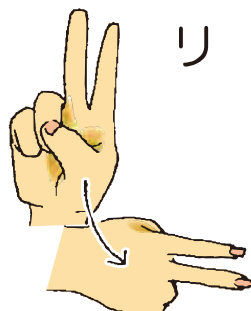
タ



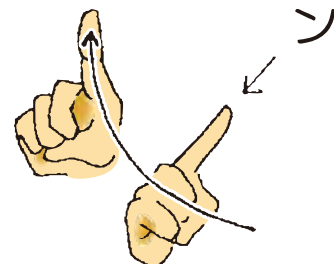
ー



プ



リ



ン

数字

1



2



3



4



5



6



7



8



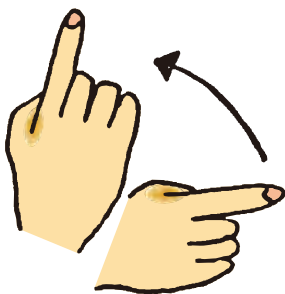
9



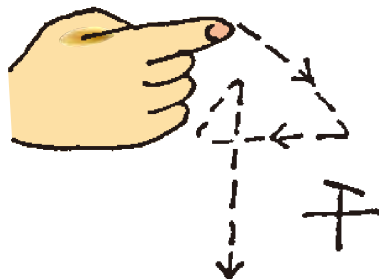
10



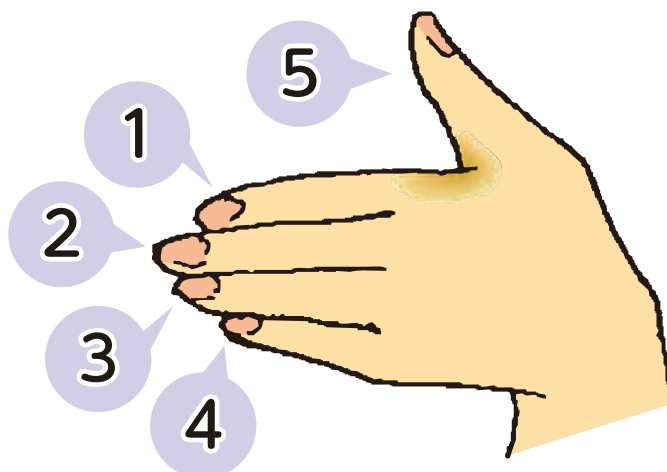
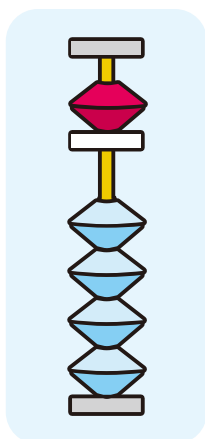
100



1000

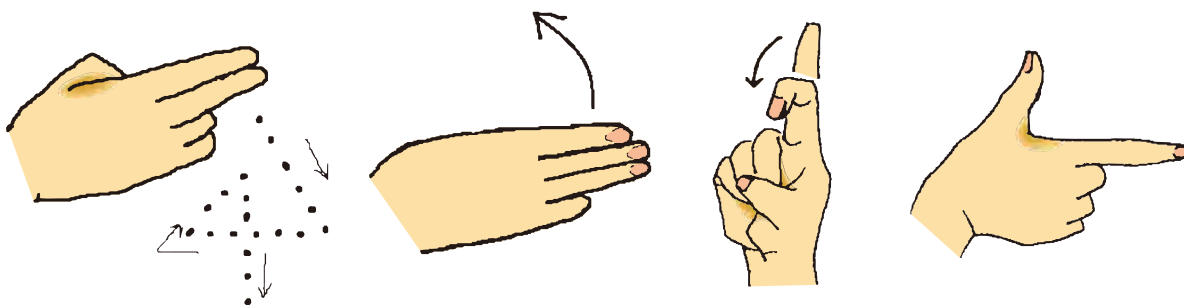


数字も見たものから生まれています。そろばんです。



親指を5の玉とし、4本の指を1の玉とみたてて、1～9まで表します。これを基本として、大きな数まで全部表します。

2316 は . . .



聴覚障害の基礎知識

耳の役割と聴覚障害

聴覚は自分の意思では止めることができない感覚のひとつです。聴覚は、たえず音や声を受け止め、眠っている間も周りの状況を把握するために働いています。また、人間は「音声による言語」で意思を伝達（会話）するようになりました。

耳が聞こえないと、音や声によって周りのようすを知ることやそれを基に判断すること（情報）、また、音声で会話すること（コミュニケーション）などが困難になってきます。

聴覚障害の人の聞こえ方

聴覚障害の人の聞こえ方はひとりひとり異なります。それは、耳から脳へ音を伝える経路のどこに障害があるか、どの程度伝えにくくなっているか（障害の程度）が違うからです。

音や声が全く聞こえない人から、大きな音や声は聞こえるが内容は聞きとれない人、少し集中すればなんとか会話できる人、リズムや音楽を楽しむ人までさまざまです。

また、補聴器や人工内耳などの補聴機器についても、効果を感じてつける人もいれば、つけない人もいます。

聴覚障害の人がいたら、それぞれの状態を知って、その人に合った配慮をすることが大切です。どういう風に伝え合えばお互いにわかりやすいのか、障害を持つ人と話し合って、一緒に考えていきましょう。

聴覚障害の人をとりまく状況



聴覚障害の子は聞こえる家族の中に生まれてくることが多く、親にとっても初めて聴覚障害を知るといった場合がほとんどです。育児について試行錯誤し、親子の会話でもスムーズに通じ合えなくて、お互いに戸惑ってしまうことが少なくありません。

最近は補聴機器をつけて、地域の学校に通う子どもが増えてきました。けれども、補聴機器をつけていても、みんなと同じように聞こえているのではないことを知っておきましょう。

聴覚障害の子どもたちが周りの人と十分コミュニケーションする経験をし、安心して成長していけるように、周りの人も聴覚障害について知り、その子の家族に対しても地域で理解を深めていきましょう。

耳が聞こえない
のはどの人？



「耳が聞こえにくい、聞こえない」のは外見からはわかりません。このため、聴覚障害の人は「声をかけたのに無視をした」「指示を聞いていない」「協調性がない」など、日常生活で誤解を受けやすく、社会生活で苦しい思いをすることが多いのです。

社会人になって、例えば会社に勤めると職場の朝礼、社内放送、口頭での指示が聞こえないなど、仕事上の困難を感じるほか、同僚の会話が聞き取れず、孤独感を深めたり、交流の場でみんなが楽しそうにしている中に入れなくて、さびしい思いをすることがあります。メモに書いて渡す、軽く肩をたたいて知らせるなど、仲間として一緒に話題を共有するように、ちょっとした工夫をしましょう。



聞こえないことの不便さは、突然の事故や災害の時にはっきり表れます。緊急時や避難所のお知らせは、放送や防災無線など音声が多く、聴覚障害者には届きにくいのです。正確に状況を把握することができなくて、災害が起きていることに気づかなかったり、気づいても判断を誤ったり、逃げ遅れたりすることが多々あります。電光掲示、字幕、紙に書いて貼る、書いた紙を持って呼びかけるなど見てわかる方法の工夫や周りの人からの支援が必要です。



私たちは、特に意識しないで、毎日たくさんの音を聞きながらそれらを生活の情報として利用していることがわかるでしょう。

耳が聞こえないと、音や声から判断できることがほとんどないことがわかります。



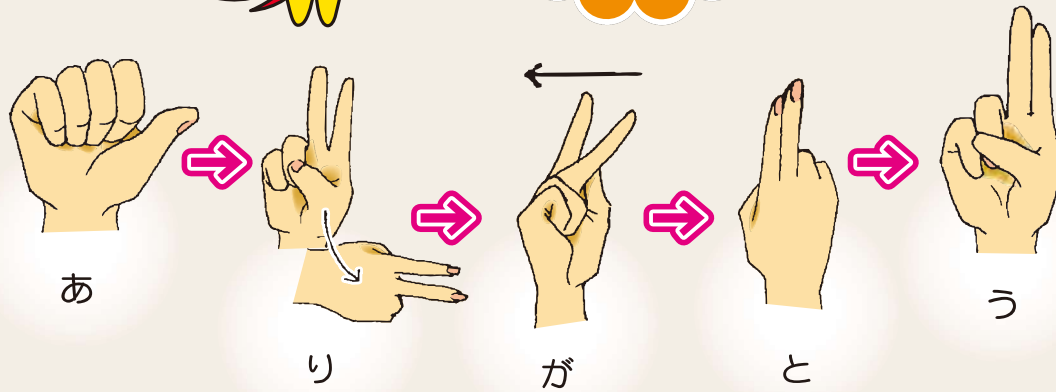
基本的な心がまえ

聴覚障害の人がそばにいるときには、その場の会話や雰囲気と共有できるように心がけることが一番の配慮です。

具体的には、どんな行動をとればいいのでしょうか？

- ◆ 基本的に話す表情や口元がよく見えるように向かい合いましょう。(差し支えない限りマスクなどは取りましょう。)
- ◆ 「聞き返していいですよ」と伝えましょう。それだけでとても気が楽になります。聴覚障害者はいつも聞きとるために緊張しているので、とても疲れます。
- ◆ 話すときに理解しながら聞いているか、表情等に注意を払いましょう。
- ◆ 伝わりにくいときは、言葉を言い換える、はっきり口をあける、紙や空中に字を書く、身振りをつけるなどいろいろな方法で豊かに会話しましょう。
- ◆ 資料、パンフレット、実物など「見てわかるもの」をどんどん活用しましょう。
- ◆ 道を歩いているとき、後ろから来る車の音や、周りの人の声、車内放送などは聞こえません。危ないときや、みんなが知る情報などは伝えてください。
- ◆ 手話はろう者の大切な言語です。手話を知らない人には、機会を見つけて、あなたが手話のことを説明してください。

制作・著作 兵庫県健康福祉部障害福祉局ユニバーサル推進課
イラストの著作権は放棄しておりません。イラストの転用は禁じます。



手を横に動かす（濁点）
指文字「ありがとう」

イラスト／原田 みほ
はばタン イラスト／兵庫県
編集／兵庫県健康福祉部障害福祉局
ユニバーサル推進課

© イラスト原田みほ 2018

お問い合わせ先

〒650-8567

兵庫県神戸市中央区下山手通 5-10-1

兵庫県健康福祉部障害福祉局ユニバーサル推進課

TEL (078)-341-7711（内線 2834）

FAX (078)-362-9040